

学校名	徳島県阿南市立津乃峰小学校

活動のテーマ	地域の未来を救え！～津乃峰子ども防災リーダーをめざして～
主な教科領域等	教科領域（全教育活動）
活動に参加した児童生徒数	（ 1～6 学年 137 人）（複数可）
活動に携わった教員数	17 人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	630 人 【保護者・地域住民・その他（県市防災関係者・阿南市幼小中防災教育部会）】 ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に丸をつけ、人数をお書きください。（複数可）
実践期間	平成30年 4月 1日 ～ 平成 31年 3月 31日
想定する災害	※該当するものに丸をつけてください。複数可。 地震・津波・台風・洪水・河川氾濫・土砂・その他（ ）

活動報告

1) 活動の目的・ねらい

児童が生涯に渡って災害に対し周りとの協働し、乗り越えていく力を身につける。そのために、「自分の身を守る知識や技能、判断力と行動力（自助）」と「家族や友だち、地域の人々と連携・協働する力（共助）」を全教育活動で培い、実施し、「防災」について学校と家庭・地域が連携して児童の命を守る体制を構築する。

2) 実践内容・実践の流れ・スケジュール

①児童が主体的に行動する減災・防災教育の推進

- ・毎月一回（年15回）実施の緊急地震速報システムを使った避難訓練。
- ・様々な教科・領域における「防災クロスカリキュラム」による減災・防災学習。
- ・地元保育園児に伝える「防災出前授業」・一人暮らし高齢者へ配布する「手作り防災頭巾」。
- ・津乃峰町全戸に配布する高学年作成の「安全・安心・防災マップ」。
- ・防災チャレンジクラブの児童によるチャレンジ新聞の発行と校内放送での呼びかけ。

②家庭や地域と連携した減災・防災教育の推進

- ・年に5回実施の「実践的防災教育推進委員会」（地域自主防災会・学校・PTA・行政が参加）。
- ・毎年6月保護者と連携した「親子避難訓練」「引き渡し訓練」と地域自主防災会との交流会。
- ・バスを利用した「親子避難所宿泊体験学習」（夏冬年2回）の実施。
- ・地域の避難場所（防災公園）を活用し、非常時の施設を利用した非常食作り等の防災活動の実施。
- ・小学校での全町運動会で、地域住民や自主防災会との防災啓発種目の実施。

③地域を誇れる心の育成

- ・毎年5月、異学年集団で行う「津峯山登山」や11月実施の「津乃峰町避難所巡りウォークラリー」で、地域を知り、良さを発見し、昔の津波被害の話を書くことで、災害から命を守っていく方法を考える。

3) 9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。

昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。

- ・9月研修会で本校の防災教育の方向性に自信を持つことができた。また、研修会で知り合った先生方との情報交換・交流から、様々な防災学習の在り方について学ぶことができた。
- ・被災地の見学と、被災された方の生の声を伺うことで、いかに子どもの命を守りきるかという視点で、本校の防災教育の見直しができた。また、この内容を取り入れた研修報告を校内研修や地域座談会で行うことで、全教職員や地域住民が防災教育の重要性を再認識し、教職員間の学び合いが深まり、教材開発が進んだ。

・今年度の実践での変更点

- ① 地域ごとに分かれて、防災マップ作製中間報告を実施。地域自主防災会からアドバイスを受け、さらに地域で活用できるものに仕上げた。
 - ② 避難所巡りウォークラリーでは、海沿いの地域を中心に実施。避難タワーや海に近い町外の避難場所となっている神社もコースに盛り込んだ。
 - ③ 保育所出前授業を1年生と5年生が合同で実施。保育所の園児を連れて近くの避難所「総合センター」への避難訓練を実施。
 - ④ 卒業式式典（卒業式練習時）における避難訓練を新たに計画・実施。
- ・防災教育教材の購入で、教職員の防災教育への意識向上と6年間を見通した指導内容の改善が図られた。

4) 実践の成果

①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

・これまでは、まず避難し命を守ることを主として活動をしてきたが、「助かった命を大切にし、生き延びる」ことにも活動が広がった。また、一人ひとりの児童が、自己の課題として捉え、地域の一人として今の自分にできることを見つけ、それを実践していく意識と態度を培う防災クロスロードや防災クロスカリキュラムの授業の構築により、E S D教育の具現化に繋がった。

②児童生徒にとって具体的にどのような学び(変容)があり、どのような力(資質・能力・態度)を身につけたか。

・防災をより身近な当たり前のものとしてとらえ、日頃の防災活動の必要性を再確認した。素早く避難する力、避難時の的確な判断力・行動力が身につけてきた。防災を自己の問題としてとらえ、自分の周り・地域へと意識が広がった。地域の方との普段からの交流の重要性の理解と主体的な行動力が身につけてきた。

③教師や保護者、地域、関係機関等(児童生徒以外)の視点から

- ・教職員の防災に取り組む意欲が高まり、指導力や防災教育のスキル向上が見られた。
- ・様々な命に関わる防災学習・活動を進め、保護者や地域を巻き込んだ活動を行うことで、学校と家庭・地域、自主防災組織などの各組織や企業との連携が一層強まり、地域住民の減災・防災意識が高まった。
- ・毎月1回、家庭防災通信「ブリッジ」を発行し、各家庭で防災の話し合いを持てるようにした。また、その家庭での話し合いの内容をフィードバックすることで、更なる家庭防災力の資質向上が見られた。
- ・学校(子ども)・保護者・自主防災組織・地域住民が参加する「津乃峰防災と人権シンポジウム『生きのこる町・つのみね会議』(第1回)を開催し、それぞれの立場で、防災への思いや今後、町の住民全員が助かるための子どもなりの提案や方策等を話し合い、「津乃峰町」への思いを深め、共有することができた。

5) 自校の実践で工夫した点、実践の特徴・特筆すべき点

- ・阿南市内幼小中学校防災教育部会や近隣地域との連携で、共に学ぶ環境づくり。
- ・一次避難場所→二次避難場所→三次避難場所と段階的に避難場所を変更したり、授業中・休み時間・清掃時など様々な時間を使ったりして、スモールステップで積み上げる避難訓練。
- ・小学1年生から、自己の課題としてとらえ、主体的・対話的・深い学びとなる防災学習の実践。
- ・防災学習の経緯が分かる、進化する防災学習室。

6) 実践から得られた教訓や課題と次年度以降の実践の改善に向けた方策や展望

- ・継続して取り組める組織運営体制の確立と人材育成。・取り組みやすい防災学習指導の構築。
- ・昭和南海地震やチリ津波の実体験を活かした被災人材ネットワークづくりと伝承教材の開発・保存。

7) その他(※特にあれば記述)

※写真や画像、補足資料などがある場合は、添付してください。

(添付資料の 有 ・ 無)

「年 15 回の避難訓練」

清掃時や予告なしの避難訓練

1 年生は 6 年生が手をつないで避難



防災クロスカリキュラムの授業

津乃峰小学校 防災クロスカリキュラム (平成 30 年度)

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年		
目 標	・災害時の危険を知り、身の守り方を理解する。(見つめる力) ・自分の生命の大切さをとらえる。(考える力) ・災害時に従って正しく状況判断し、安全に行動できる。(かかわる力)	・災害時の危険を知り、身の守り方を理解する。(見つめる力) ・自分の生命の大切さをとらえる。(考える力) ・災害時に従って正しく状況判断し、安全に行動できる。(かかわる力)	・災害時の危険を知り、災害の備えや身の守り方を理解する。(見つめる力) ・自分の生命の大切さをとらえる。(考える力) ・災害時に従って正しく状況判断し、危険回避行動がすばやくできる。(かかわる力)	・災害時の危険を知り、災害の備えや身の守り方を理解する。(見つめる力) ・自分の生命の大切さをとらえる。(考える力) ・災害時に従って正しく状況判断し、危険回避行動がすばやくできる。(かかわる力)	・災害発生メカニズムや危険性を知り、災害の備えや身の守り方を理解する。(見つめる力) ・共に生きる生命の大切さをとらえ、チームについて考える。(考える力) ・災害時に危険回避行動がすばやくできる他の人の役に立つ行動もできる。(かかわる力)	・災害発生メカニズムや危険性を知り、災害の備えや身の守り方を理解する。(見つめる力) ・共に生きる生命の大切さをとらえ、チームについて考える。(考える力) ・災害時に危険回避行動がすばやくできる他の人の役に立つ行動もできる。(かかわる力)		
人権教育学年目標	自分の好きじいにとらわれず、だれとも作れなく、友達を大切にしようとする態度を育てる。	相手の立場に立って考え、みんなで助け合おうとする態度を育てる。	互いに認め合い、見え合いながらよりよい集団をつくっていくこととする態度を育てる。	身の回りの偏見や差別の不当性を知り、その解決のために取り組もうとする態度を育てる。	他人や人間関係に対する理解を深め、差別や人権侵害を見逃さない態度を育てる。	様々な人権課題に寄り付き、課題解決に積極的に取り組もうとする態度を育てる。		
教 科	国 語	○おきななかが ○うずうずと、ずと、大すきだよ	○スイミー ○ありと、ずと、大すきだよ	○気になる足音 ○「ありと」と、ずと、大すきだよ ○食べ物のひみつを教えます	○大きな力を出す ○自分の考えを伝えるには ○だれもが関わり合えるように	○新聞を読む ○きいて、きいて、きいてみよう ○百年後のふるさとを守る	○ようこそ、私たちの町へ ○未来がよりよくなるために ○自然に学ぶ暮らし	
	算 数	○ながまくらべ ○とけい ○大きまくらべ	○長さ ○かさ ○100cmをこえる長さ ○時間と時刻	○時間と長さ ○時間しょう ○ととグラフ ○長さ	○折れ線グラフ ○面積 ○調べかきと整理のしかた ○平均	○体積 ○面積 ○単位量あたりの大きさ ○割合	○速さ ○立体の体積 ○資料の調べ方	
	社 会			○わたしたちの住むまちほんまなまち ○わたしの権利 ○変わるわたしたちのくらし	○安全なくらしとまちづくり ○健康なくらしとまちづくり ○昔から今と続くまちづくり	○わたしたちのくらしと閉じ ○くらしをよくなる ○国土の自然ととも生きる	○災害からわたしたちを守る政治 ○日本とわたしの関係 ○世界のくらしととも生きる	
	理 科			○身近なもののかんさつ ○電気で明かりをつくる ○ものどま	○電気のはたらき ○ヒトの体のつくりと運動 ○水のゆえ	○台風と気象情報 ○気象災害からくらしを守る ○流れる水のはたらき		
	生 活	○がっこう だいすき ○じぶんでもできるよ	○どきどきわくわく まちたんけん ○あんなでつかう まちのしせつ ○もつとかなし、まちたんけん					
	音 楽	○おきななかが ○どんなゆめ ○まぼろし	○あそびの空のように ○輪舞曲	○ドレミの歌 ○世界の子どもたちが ○ありとどこの花	○ゆかいに歩けば ○こまごまの春 ○星の秋	○心から心へ ○大切なもの ○こまごまの春	○語り合おう ○ふぶき ○花は咲く	
	図画工作	○いろいろなわたしのかみから ○かみざらコロコロ ○すなや つつと なかよし	○しんぶんしどなかよし ○くしやけしやげ ○さびりようからひらめき	○うれしくつたあそびのあそび ○クマのミックス ○おもものワールド	○つつんだアート ○幸せを運ぶカード ○ゆめのまちへようこそ	○伝えたい思いや気持ち ○あんなでつかうこまごまの春 ○光のハーモニー	○わたしたちの大切な風景 ○ドリームプラン ○12年後のわたし	
	家 庭					○ていねいさを生かそう、防災演習 ○物を生かして快適に生活しよう ○心のつながりを深めよう		
	体 育	○体ほぐしの運動 ○水泳び(着衣泳) ○多様な動きをつくる運動遊び	○体ほぐしの運動 ○水泳び(着衣泳) ○多様な動きをつくる運動遊び	○体ほぐしの運動 ○水泳び(着衣泳) ○多様な動きをつくる運動遊び	○体ほぐしの運動 ○水泳び(着衣泳) ○多様な動きをつくる運動遊び	○心の健康 ○水泳(着衣泳) ○けがの防止 ○体づくり運動	○筋力の予防 ○病気の防止 ○水泳(着衣泳) ○体づくり運動	
	外 国 語					○Hello, everyone. (挨拶・自己紹介) ○What's this? (身の回りの物) ○Where is the treasure? (位置と場所)	○Can swim (スポーツ・動作) ○Turn right (建物・道案内) ○Junior High School Life (中学校生活・自己表現)	
外国語活動			○楽しいな！外国語活動！(初級・1年) ○Hello! (あいさつ・挨拶) ○How many? (数を数える) ○I like blue (好きな物を伝える)	○Let's play cards (天竺・動作・体の部位) ○Do you have a pen? (持ち物を尋ねる) ○This is my favorite place (場所)				
特別の教科 道徳	○これこれ！(生命の尊さ) ○いただきます(生命の尊さ) ○てのびをたたくように(生命の尊さ) ○まきり(規則の尊さ)	○大事にするよ(生命の尊さ) ○ほたるのいのち(生命の尊さ) ○ポケット二つ(規則の尊さ) ○ぼくががら(態度、民主)	○ぼくは次郎山(伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度) ○思い切って言ったたらどうなるの(言語の判断、自立・自由と責任) ○ぼくが知らなかったよ(感謝)	○不思議の不思議(生命の尊さ) ○神戸のふこうは、ぼくらの手で(勤労、公共の精神) ○同じ仲間だから(公正、公平、社会正義)	○手のひらのかぎ(生命の尊さ) ○言いたくも言えぬこと(よきよき学校生活、集団生活の充実) ○言葉はチームワーク(家族愛、家庭生活の充実)	○百十の血(生命の尊さ) ○ぼくはこうかい(公正、公平、社会正義) ○助け合って生きる(勤労、公共の精神)		
総合的な学習の時間			○知ろう、自分たちのふるさと・深遠が来るまでの行動を学ぼう ○地球を守ろう、地球ががら ○ボランティアの人から学ぼう	○命を守る防災について学ぼう ・大地震から生きる方法を学ぼう ○みんなで生きるために ・人のために自分たちができること	○命安全安心防災マップを作ろう ・高齢者の防災について学ぼう ○防災意識を高めよう ・防災グッズを知ろう	○もとも学校をよくしよう ・もとも防災について学ぼう ○防災マップを作成し、発信しよう ○もとも守ろう人間		
特別活動	○避難活動を知ろう ○地震が起きたらこのポーズ ○休み時間に地震が起きたら？ ○下校時に地震が起きたら？	○避難活動を知ろう ○地震が起きたらこのポーズ ○休み時間に地震が起きたら？ ○下校時に地震が起きたら？	○安全な避難の仕方 ○地震から身を守る方法 ○避難訓練の振り返りをしよう ○下校時に地震が起きたら？	○安全な避難の仕方 ○地震から身を守る方法 ○避難訓練の振り返りをしよう ○下校時に地震が起きたら？	○災害時に自分ができること ○率先避難者になるために ○防災リーダーになるために ○避難訓練の振り返りをしよう	○災害時に自分ができること ○率先避難者になるために ○防災リーダーになるために ○避難訓練の振り返りをしよう		

家庭科「なみぬい (小物づくり)」

理科「水の流れ」

外国語活動の導入授業

算数「時間と時刻」



保育所出前授業 (毎年 1 年生と 5 年生が保育所を訪問)

手作り防災ずきん配布



高学年が毎年作成した
「安全・安心防災マップ」を
個別訪問し、説明しています。

「防災チャレンジクラブ」の活動

段ボールトイレづくり

テント張り

新聞で作る小物づくり



ロケットストーブづくり

簡単非常食づくり

避難所でのスペースづくり



全校朝会で紹介

ローリングストックの大切さの呼びかけ

防災士の方との大声訓練



募金活動への呼びかけ

昭和南海地震・チリ津波の被災体験者の聞き取り



チャレンジ新聞づくり

防災校内放送

防災絵本

1年生へ読み聞かせ



実践的防災教育推進委員会（地域自主防災会・学校（小学校・中学校・保育所）P T A・行政・地元企業が参加
アドバイザーは、徳島大学教授、徳島大学環境防災研究センター長 中野 晋 先生）



バスを利用した「親子避難所宿泊体験学習」（夏と冬、年2回実施）



地域の避難場所「防災公園」の施設を活用した活動

トイレづくり

かまどベンチで非常食づくり

避難場所レイアウト検討会



全町運動会での地域住民や自主防災会との防災啓発種目



5月実施の津峯山全校登山



11月実施の津乃峰町避難所巡りウォークラリー



下校時避難訓練後の防災マップ作成中間報告会



避難所巡りウォークラリー（今年は、海沿いの地域を・・・）

諏訪神社

避難タワー



地域の避難場所にある防災倉庫の中身も地域の人に教えていただく。



保育所出前授業で

園児との避難訓練



はじめて園児と一緒に、手を繋いで総合センターへ避難の練習

卒業式式典（卒業式練習時）における避難訓練を新たに計画・実施



体育館から運動場へ、手を繋いで避難

防災クロスロード「あなたはどっち」（6年生）

「あなたならどうする」（1年生）



自己の課題として考える。地域の一員として今の自分にできることを見つけ、実践に繋げていく。



家庭防災通信「ブリッジ」発行（今年度から、毎月1回発行 毎月第3日曜日は家庭防災の日としています。）

ブリッジ

津乃峰小学校
家庭防災通信
平成30年6月

親子避難訓練・引き渡し訓練お世話になりました！

6月3日の避難参観日は、親子避難訓練、引き渡し訓練でした。たくさんのご参加ありがとうございました。たくさんのご意見ご感想をいただきましたので紹介します。

- ・子ども達の避難の早さに驚いた！・引き渡しはスムーズでよかった。
- ・自分の知らなかったことを地域の人が教えてくれて驚きました。
- ・非常食作りは想像がなかなか出来なかった。
- ・自主防災会の方はもちろん、各家庭の防災委員さんの声もよく聞かれました。
- ・子ども達の避難訓練が大人より驚くくらい。
- ・引き渡しカードは便利だった。笑顔を振りまいてくれた。
- ・各学年で防災委員の役割を体験させてみてほしい。
- ・地域の方言が聞こえづらく残念だった。
- ・チャレンジクラブの設備があってわかりやすかった。
- ・避難から避難所までいそいそと歩いておことうと思った。
- ・家族、地域、避難所が一つとなって訓練できてよかった。
- ・天候も良かった。引き渡しを待つ時は帽子や日傘があるといい。
- ・避難や地震についての説明を聞いたりしてからみんなで遊べるのもいいかも。
- ・避難所までかかったのがおもしろかった。・公園に避難が欲しいと思いました。
- ・防災公園設備の説明がよかった。倉庫内にはどんな物が備蓄されているか知りたい。
- ・避難経路に草が生えており歩かなくていい場所が。・避難からの距離が遠いと感じた。
- ・ローリングストックは実践を体験にせず、なおかつ災害に備える有効な方法だと思った。
- ・毎年、災害を防止すつていながらもスムーズに避難できるようになってきており、驚きと感謝する気持ちを感じた。

多謝いただいたご意見をこれからの防災活動にいかしていきたいと思っております。

防災公園までの避難経路について…

今回避難した防災公園までの避難経路は、訓練用の避難経路です。安全上の理由等により実際に避難する際の避難経路ではありません。被災した場合は防災公園までの避難経路についてポイントをもとめました。家族でもご確認ください。（訓練が避難時の道、実路が避難の道です。）しかし、こちらあくまで想定です。その状況に応じて道が判断できるよう指導していきます。



家族防災会議③～自宅の危険箇所チェック～

今回は「自宅の危険箇所チェック」です。二百の中で一番長い時間を過ごすのが自宅と書かれています。まずは危険な箇所をチェックして安全な場所を確保しましょう！

★避難リストとチェックポイントを載せてありますので、ご活用ください！★

6月17日「家庭防災の日」に、結び合わせていただくこと
※この用紙は、子どもさんを通じて、担任・学校へ届けてください。

学校(子ども)・保護者・自主防災組織・地域住民が参加する「生きのこる町 つのみね会議」(第1回)

